

第 95 回イノベーション交流分科会報告

日 時：2025 年 11 月 6 日（木曜日） 18：00～20：00

開催方法： オンライン（Zoom）

講 師： 株式会社 DIVX 代表取締役 物部 英嗣 氏

講演題目： 「生成 AI が突きつける「4 つの壁」

— 義務化 2 年半の現場から見た人と組織の再設計

講演概要：

物部社長が DIVX の現状と経営課題について説明し、生成 AI の活用による人材不足の解決策を模索していることを共有した。物部社長は、生成 AI の導入における主要な障壁として「四つの壁」という概念を説明し、国語力（言語の壁）、設計力（標準化の必要性）、人月商売構造（価値基準の変化）、心理的障壁の 4 つを特定した。参加者からは AI の導入における課題について議論があり、自動化の「皮肉」と呼ばれる現象、V 字モデルの構造、そして人材の評価と教育における課題を議論した。

DIVX 社の経営状況：

DIVX の現状と経営課題について説明があった。同社は 2021 年に設立され、生成 AI の活用により人材不足の解決策を模索している。初年度は売上 2.7 億円だったが、人件費の過剰が赤字に繋がり、現在は 80 名まで人員を削減している。売上は横ばい（8.5-9 億円）で、利益率も 12%と業界平均を上回っている。

生成 AI 導入の主要障壁：

物部氏は、生成 AI の導入における主要な障壁について議論し、最初の障壁として言語運用能力の問題を挙げた。彼は、IT 業界におけるピラミッド構造において、下流工程の従業員が AI に適切に仕様を伝える能力に欠けていると説明した。さらに、生成 AI が V 字モデルの下部から始まり、上流工程まで進むプロセスについても言及し、設計能力の重要性を強調した。最後に、認知特性や言語構造理解能力の測定方法についても触れ、RST（Reading Skills Test）を使用した初期の研究結果を共有した。

AI 導入の四つの壁：

物部氏は、AI 導入における「四つの壁」という概念について詳しく説明した。第一の壁は言語の壁で、AI が理解するための自然言語処理、論理構造の課題である。エンジニアによってスキルレベルが異なり、その測定と教育によって改善が見られる。第二の壁は、設計ができるか、標準化と平準化の必要性で、開発会社間での品質の差を吸収することが重要である。第三の壁は価値基準の変化で、従来の人月単価モデルからアウトプットベースの評価シ

システムへの移行が必要である。AI も人として捉えてはどうか。第四の壁は心理的壁で、従業員の AI への抵抗や自己防衛反応が存在し、特に長年経験のあるエンジニアには強い反応が見られる。

物部氏は、組織全体での AI 活用に向けて、評価制度の見直し、組織図の変更、心理的安全性の確保が重要であると述べた。また、AI の再利用性と資産化の重要性を強調し、生成 AI を使用することで開發生産性が大幅に向上する一方で、従来の収益構造に影響を与える可能性があると説明した。

質疑応答：

- AI チャットボットとのコミュニケーションにおける日本語と英語の違いについて
- 中間管理職の役割と組織構造の変化について
- 四つの壁を越えるには、理系より文系の人の方が有利か。超える時に順序はあるか。
- 新人・ベテラン間での AI 活用時のフィードバック・教育サイクル構築について。
- 自動化の「皮肉」と呼ばれる現象について
- 学習結果の積み上げはどこに置いているか。いくつかの生成 AI ツールを使い分けている。
- 開発プロセス全体（要件定義～テスト）における AI 導入時の役割・責任分担の明確化と、フィードバックサイクルの構築
- 商材販売価格の低下を防ぐための営業力・新規提案の重要性

以上